メンテナンスについて

1.使用後は天幕と本体フレームの汚れを落とし、よく乾かしてから収納してください。天幕の汚れがひどくなると美観を損なう上、耐候性・耐久性も悪くなります。
　また定期的に中性洗剤の希釈水を使って汚れやクスミを拭き取り、天幕や本体フレームに洗剤が残らないように濡れ雑巾等で拭き仕上げをしてください。
　（シンナーやアルコール類は素材や生地を傷める原因となるので絶対に使用しないでください。）

2.塗装部のはがれやサビを発見した場合は、付属の補修用品で早期に塗装、補修を行ってください。

3.ボルト各部やネジ、ベルト、ひも等、緩みがないか定期的にチェックを行い、緩みを見つけた場合はお手持ちの工具等で締めつけてください。

4.天幕などの生地製品は経年劣化してきます。天幕単品をお求めの場合は、別途お見積もり致します。詳しくは、お求めになった販売店へお問い合わせください。

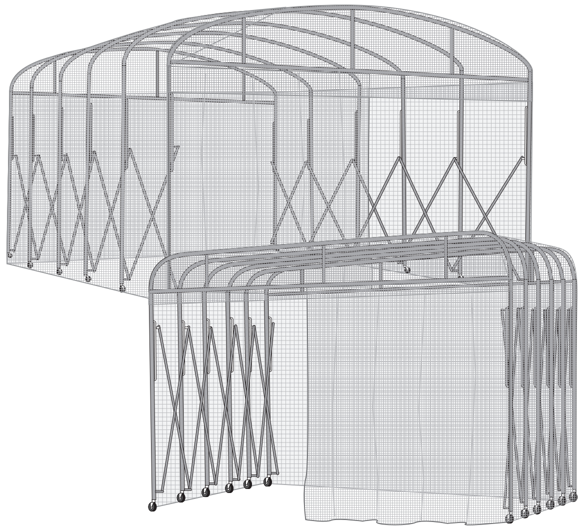
保管場所について

●本品を保管の際は、直射日光を避け、雨のあたらないような風通しの良い湿気の少ない場所に保管してください。

仕　　様

	間口(mm)	奥行き(mm)				有効高と全高(mm)					
						有効高	全高	有効高	全高	有効高	全高
アーチタイプ	2300	3000	4000	5000	6000	2000	2450	2500	2950	3000	3450
水平タイプ							2420		2920		3420
アーチタイプ	2800	3000	4000	5000	6000	2000	2520	2500	3020	3000	3520
水平タイプ							2420		2920		3420
アーチタイプ	3300	3000	4000	5000	6000	2000	2570	2500	3070	3000	3570
水平タイプ							2420		2920		3420
アーチタイプ	3800	3000	4000	5000	6000	2000	2630	2500	3130	3000	3630
水平タイプ							2420		2920		3420
アーチタイプ	4300	3000	4000	5000	6000	2000	2680	2500	3180	3000	3680
水平タイプ							2420		2920		3420
アーチタイプ	4800	3000	4000	5000	6000	2000	2730	2500	3230	3000	3730
水平タイプ							2420		2920		3420
アーチタイプ	5300	3000	4000	5000	6000	2000	2780	2500	3280	3000	3780
水平タイプ							2420		2920		3420
アーチタイプ	5800	3000	4000	5000	6000	2000	2830	2500	3330	3000	3830
水平タイプ							2420		2920		3420

フレーム	柱フレーム	H:3m	:スチール角パイプ（38×38×1.6t）のダブル
		H:2.5m/H:2m	:スチール角パイプ（38×38×1.6t）
	クロスバー	H:3m/H:2.5m	:スチール丸パイプ（27Ø×1.9t）
		H:2m	:スチール丸パイプ（21.7Ø×1.9t）
	天井フレーム	アーチ部	:スチール丸パイプ（34Ø×2.3t）
	天井フレーム	水平部	:スチール角パイプ（31×31×1.6t）
	伸縮防止バー		:スチール鉄筋（13Ø L=1000）
	カーテンレール		:アルミ押出形材+アルマイトコーティング仕上
キャスター	75ø ゴム車（全てストッパー付）自在輪		
動作形式	組立式		
付属品	柱フレーム（キャスター・クロスバー・アイナット付）×2セット 天井フレーム×必要本数　伸縮防止バー×4　組立用フットバー×2 風対策用品（アーチタイプのみ）×必要本数　天幕×1 タッチアップセット（ペンキ・ハケ）×1　取扱説明書×1　カタログ・図面×1		



http://www.sakuracorporation.com

SAKURA CORPORATION
株式会社さくらコーポレーション

本　　　社：〒610-0342　京都府京田辺市松井宮田26-1
関東営業所：〒344-0026　埼玉県春日部市武里中野285-4

お問い合わせ、ご用命は……

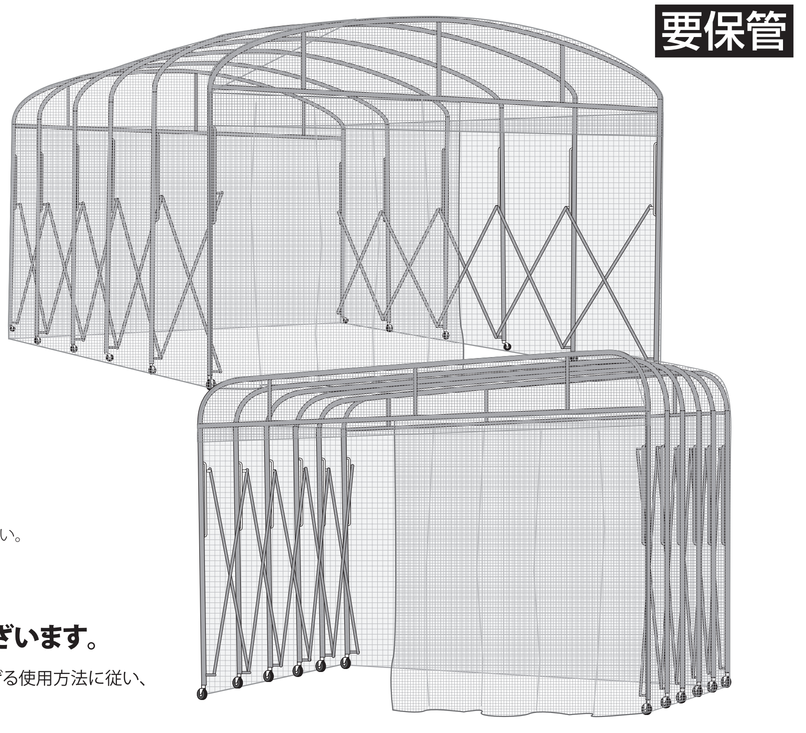
キャスター式伸縮テント

たため～るくん

取扱説明書

要保管

水平タイプ　　アーチタイプ



基本梱包内容

- ●柱フレーム…………………×2セット（キャスター・クロスバー・アイボルト付）
- ●伸縮防止バー………………×4
- ●天幕…………………………×1
- ●取扱説明書（本書）…………×1
- ●カタログ・図面………………×1
- ●天井フレーム…×各サイズ必要本数
- ●風対策用ロープ（アーチタイプのみ）………×各サイズ必要本数
- ●タッチアップセット………×1（ペンキ・ハケ）
- ●組立用フラットバー…………×2

※サイズによって入数が異なる部材がございますので、詳細は付属の別紙図面でご確認下さい。
※オプションの部材名称・入数は付属の別紙図面をご覧下さい。

このたびは、本品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

安全にお使いいただくために、ご使用前に本取扱説明書をよくお読みの上、本書に掲げる使用方法に従い、
末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。
またお読みになった後はいつでも取り出して読めるよう大切に保管してください。

本品を安全にお使いいただくために、下記の要領を必ずお守りください。
※なお、誤った取扱方法や使用状況、また改造等による破損・損害・事故、および経年劣化等による各部の劣化・損傷・サビや腐食の発生につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。

安全上のご注意

● シグナルマークの定義 ●

⚠警告　この指示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意　この指示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性、および物的損害が発生する可能性が想定される内容を示しています。

使用条件

● 使用環境 ●

⚠警告 ①アーチタイプは大雨、強風、突風、雪、雷などの天候不順時、または設営期間中にそれが予想される場合には危険ですので使用しないでください。テント本体が倒れたり、飛ばされたり、人が傷害を負ったり、物を破損させる原因となります。また、降雪時には雪が積もり倒壊する恐れがありますので使用しないでください。

⚠警告 ②水平タイプは屋内使用に限ります。

⚠警告 ③勾配のある場所は避け、平らな場所に設置して下さい。また、電線に触れない場所に設置して下さい。また、周囲に子供や関係者以外の人がいないのを確認して、フレームの組立て、解体を行って下さい。

● 用途 ●

⚠警告 ①本品を常設用として使用しないでください。本品は、一時的かつ簡易的に使用することを目的とした構造となっているため、常設用として使用した場合、思わぬ事故につながる可能性があります。

⚠警告 ②本品を改造したり加工したりしないでください。改造・加工による本体の倒壊や、人が傷害を負ったり、物を破損させる恐れがあります。

⚠注意 ③本品には、絶対登らないでください。また、ぶら下がったり、物を吊したりする等、過度の負担を掛けるような行為はしないでください。倒壊や破損につながり非常に危険です。

● 取扱上の注意 ●

⚠警告 ①設営時にはテントが水平になるように設置して下さい。また、屋外で使用される時は必ず付属の風対策用ロープ等で本体を固定して下さい。突風による本体の倒壊や、人が傷害を負ったり、物を破損させる恐れがあります。

⚠警告 ②本品に電源や火気類を近づけないでください。フレームには金属を使用しており、感電の危険があります。また、天幕の素材には、ターポリン生地を使用しておりますが、破損や火災発生の原因となります。

⚠警告 ③ご利用の前に、本取扱説明書をご理解していただいた上で、テントを設置する場所に部材を並べ、部材数量を確認して下さい。製作には万全を期しておりますが、万一数量不足、不良品等が発見された場合は、ご使用にならず、お求めになった販売店へご連絡下さい。

⚠警告 ④設営前に、設営場所が本取扱説明書の使用条件を満たしていることをご確認ください。

⚠警告 ⑤設営・収納作業時には、ジョイント部分、ベース部分、スライド部分に手や指をはさむ恐れがありますので、作業時はヘルメットや軍手等を着用し、ケガや事故のないよう十分に注意しながら作業を行ってください。また脚立での作業には、ケガや事故のないように十分にご注意ください。

⚠警告 ⑥設営・収納作業は安全のため、必ず大人4人以上で行ってください。また、移動させる際も、大人4人以上で転倒に十分注意して行って下さい。また、テントが大きい場合は必ず重機等を使用し、安全を十分に確認しながら組み立てて下さい。屋外で組み立てられる場合は無風時に作業して下さい。テントが風にあおられると大変危険です。

⚠注意 ⑦本品は、鉄・アルミ材を使用しているため、足元に落としたり、手や指等をはさむと大変危険です。取り扱いには十分ご注意ください。

⚠注意 ⑧伸縮防止バーをいれたままで、伸縮されますとクロスバーが曲がり破損する危険性がございますので、十分ご注意ください。

⚠注意 ⑨天幕を取り外して保管される場合は、風通しのよい場所に保管して下さい。湿気が多いとカビの発生の原因になります。

フォークリフトを使用して
組立てられるお客様は

>>> 2Pへ

フォークリフトを使用しないで
組立てられるお客様は

>>> 5Pへ

フォークリフトを使用した組立て方法

※写真はアーチタイプW3.3×L3.0×H5.0mを例に説明しています。テントの大きさや形状・仕様に違いはありますが、他の規格品も組立て手順は同じです。なお各部の名称は裏面「各部の名称」を参照してください。

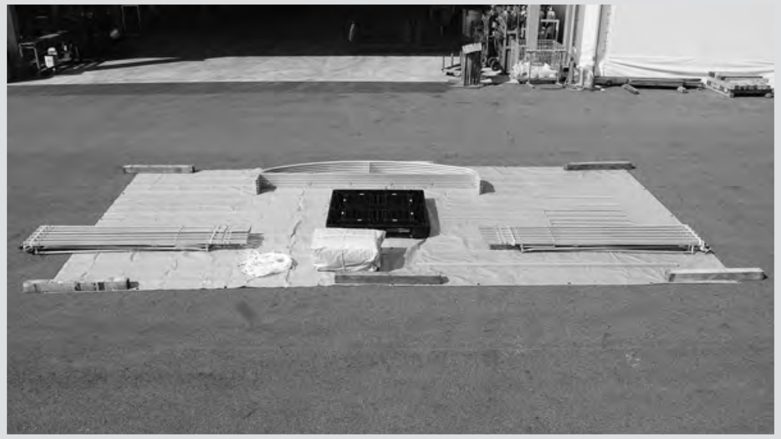
※設営の人員は**大人4名以上**で行って下さい。また設営にはラチェット・カッターナイフ・脚立等の工具が必要です。
特型仕様等につきましては この組立て方法が出来ない場合がございます。その場合は別途販売店までお問合せお願い致します。

1

梱包されたパーツを、設置する場所に配置します。梱包をほどき、パレットを中央にして右写真の様に部材を配置し、各部材、数量を確認します。

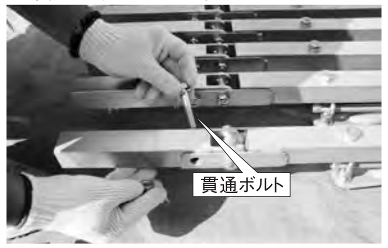
⚠ 注 意

天候不順時には設営作業を中止してください。また、勾配のある場所での組立ては危険ですので行わないでください。周囲の安全を十分に確認し、開梱及び組立て時は指などをはさまれないように注意してください。



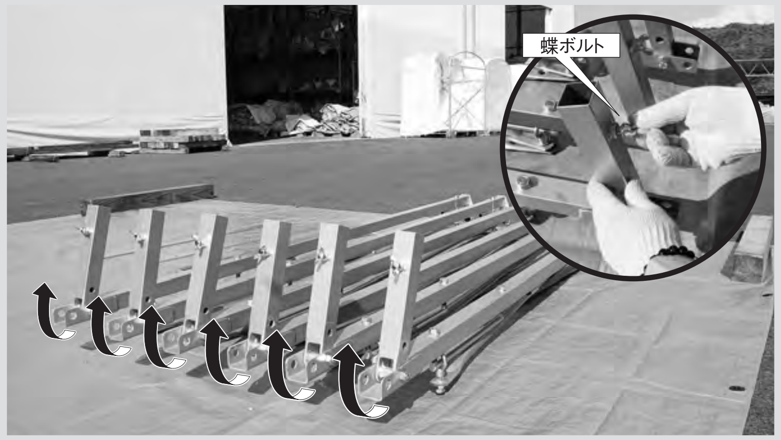
2

全ての柱フレーム上部の貫通ボルトを外し、上を向くように折り曲げます。この時に柱フレーム上部の蝶ボルトも緩めておいてください。



⚠ 注 意

取り外した貫通ボルトは後の作業で必要となりますので失くさないように保管してください。

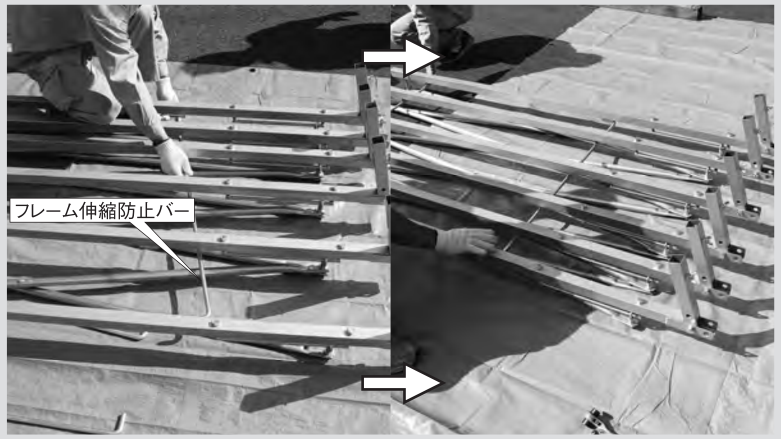


3

上を向いた柱フレームの口が天井フレームの差込みパイプの幅に合う位置に配置・調整してください。

4

柱フレームに伸縮防止バーをセットし、柱フレームの間隔が均等になるように全ての柱フレームの位置を調整してください。

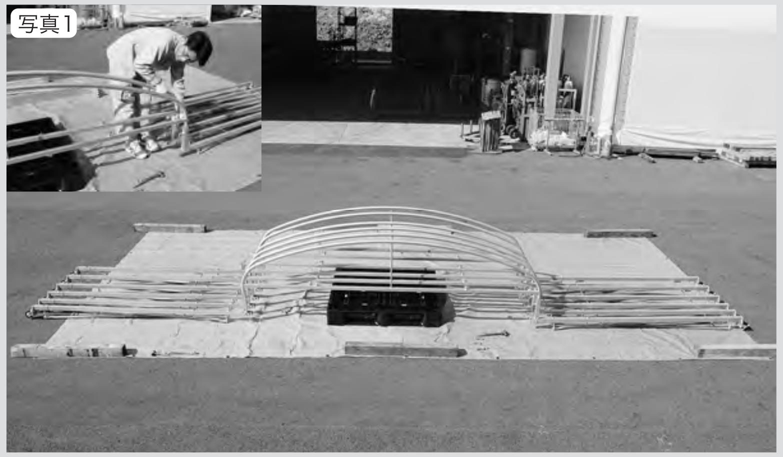


5

上を向いた柱フレームの口に天井フレームの差込みパイプを差し込みます。写真1 しっかりと差し込んだ事を確認した上で柱フレームの蝶ボルトを工具等を使用し、しっかりと締め込みます。

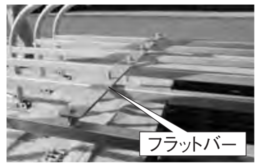
この作業の際に天井フレームに付いている蝶ナットは外して保管しておいてください。また、正面用のフレーム、背面用のフレーム等の種類に気を付けて作業を行ってください。

柱フレームの蝶ボルトは確実にしっかりと締め込んでください。締め込みが緩いと後のリフトアップ作業時に柱が脱落する可能性が有ります。



6

天井フレームに付いているボルトにフラットバーを取り付け、⑤の作業で取り外した蝶ナットで固定をしていきます。



⚠ 注 意

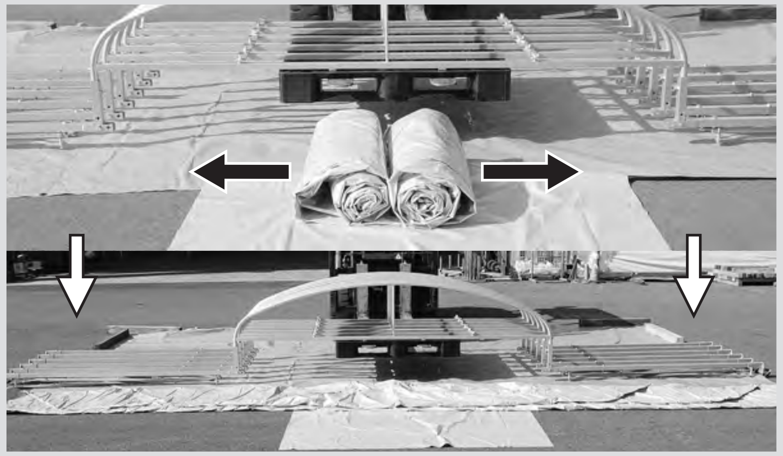
この時、全ての天井フレームがパレットに載るようにパレット位置を調整してください。

7

天井フレーム下部のパレットにフォークリフトをセットしてください。次に、テントを写真のようにフレーム正面に配置し、左右に広げます。

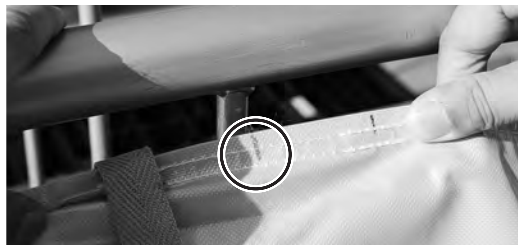
⚠ 注 意

この時、全ての天井フレームがパレットに載るようにパレット位置を調整してください。



8

本体テントと妻面テントの繋ぎ目の太いヒモが表になるようにテントをまくり、中心から左右に向けて天井フレームの丸パイプにくくり付けていきます。

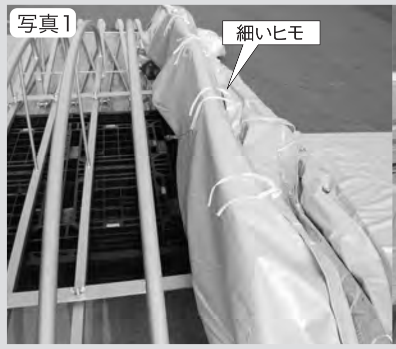


テントの繋ぎ目にある赤色の点がテントの中心の印となりますので、それを目印にフレームの中心を合わせてください。

9

次の天井フレームにくくるヒモが見えてくるまでテントをたくし上げ、先程と同じように次の天井フレームの丸パイプに細いヒモをくくりつけます 写真1 。たくし上げたテントシートは天井フレーム間の隙間に落し込んでください 写真2 。この作業を全てのテントがフレームに被るまで繰り返します。

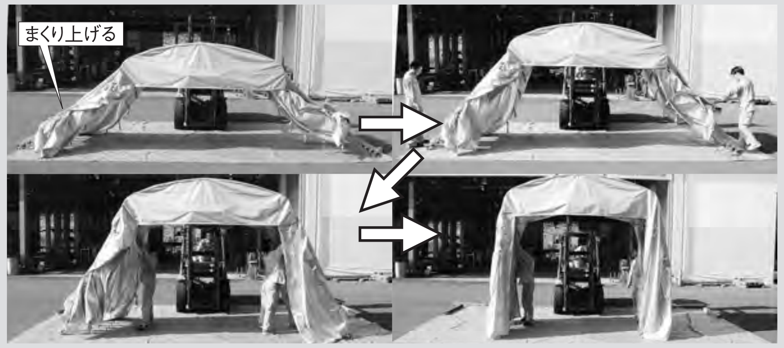
天井フレームにテントをくくっていくのと合わせて柱フレームにもテントを被せていってください。その際、柱フレームにはヒモをくくらないように注意してください。



10

リフトアップ時にキャスターでテントを踏まないよう柱フレーム裾部のテントをまくり上げた後、キャスターのストッパーが全てOFFになっていることを確認します。その後、安全を確認しながらゆっくりとフォークリフトで天井フレームを持ち上げていきます。

リフトアップ時は柱フレーム屈折部及びキャスター部にテントを挟み込まないように注意、調整しながら作業を行ってください。



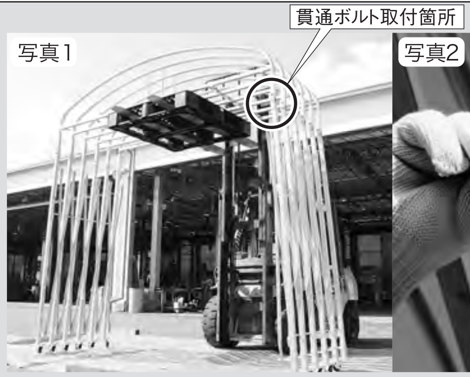
11

柱が直立した時点でリフトアップを止め 写真1 、②の作業時に取り外した貫通ボルトを元の状態になるように取り付けます 写真2 。

※写真はわかりやすくする為、テントを外した状態で撮影したものです。

⚠ 注 意

貫通ボルトを全て取り付け終わるまでフォークリフトを上げた状態にて作業を行ってください。



12

天井フレームのフラットバーを取り外し、全ての柱フレームが垂直に立つように調整しながら柱フレームの上下のボルトをしっかりと増し締めします。

※写真はわかりやすくする為、テントを外した状態で撮影したものです。

13

テント内側より柱フレーム部の伸縮防止バーを取り外しフレームを最大に伸ばします。伸びた状態で伸縮防止バーをフレームに取り付け、全てのキャスターのストッパーをONにします 写真1 。柱フレーム部の残りのヒモを全て結び、オプション品等を取り付け完成です。屋外用(アーチタイプ)でご使用の場合は、張り綱を張ってフレームを固定してください。

フォークリフトを使用しない組立て方法

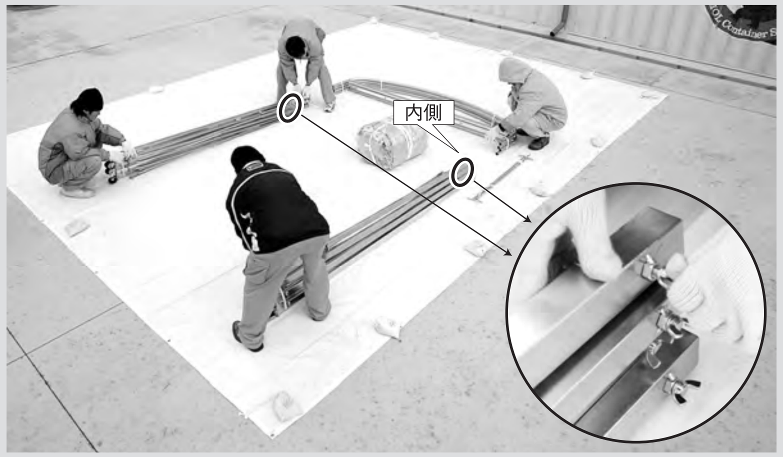
※写真はアーチタイプW2.3×L3.0×H2.5mを例に説明しています。テントの大きさや形状・仕様に違いはありますが、他の規格品も組立て手順は同じです。なお各部の名称は裏面「各部の名称」を参照してください。
※設営の人員は**大人4名以上**で行って下さい。また設営にはラチェット・カッターナイフ・脚立等の工具が必要です。

❶ 梱包されたパーツを設置する場所に配置します。梱包をほどき、柱フレーム上部の蝶ネジを緩めます。

梱包状態

⚠ 注 意

勾配のある場所での組立は危険ですので行わないで下さい。フレームを配置する時は大人2人以上で両端を持ち、指などをはさまないように注意して下さい。

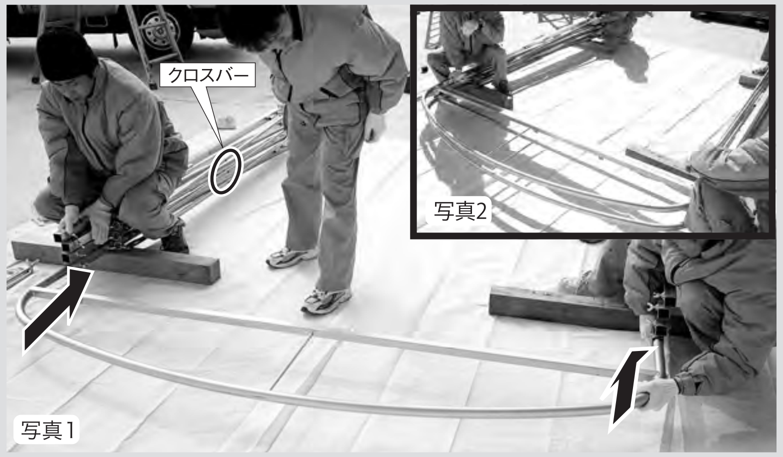


❷ 柱フレームをクロスバーが付いている方を内側になるように向きを変え、最も下にある柱フレームの差込口に、背面用天井フレームを差し込みます。(写真1)
次に一番上にある柱フレーム差込口に同じように正面用天井フレームを差し込みます。(写真2)
天井フレームを差し込んだ柱フレーム上部の蝶ネジ(計4ヶ所)を締め付けます。(写真3)

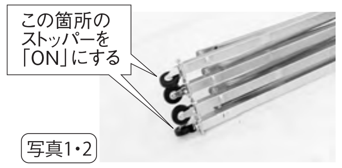
蝶ネジは手で締めて下さい。工具を使って締め付けると天井フレームが抜けなくなる可能性があります。

⚠ 注 意

天井フレームは、柱フレームの奥までしっかり差し込んで下さい。しっかり差し込まないと、フレームが安定しない原因となります。

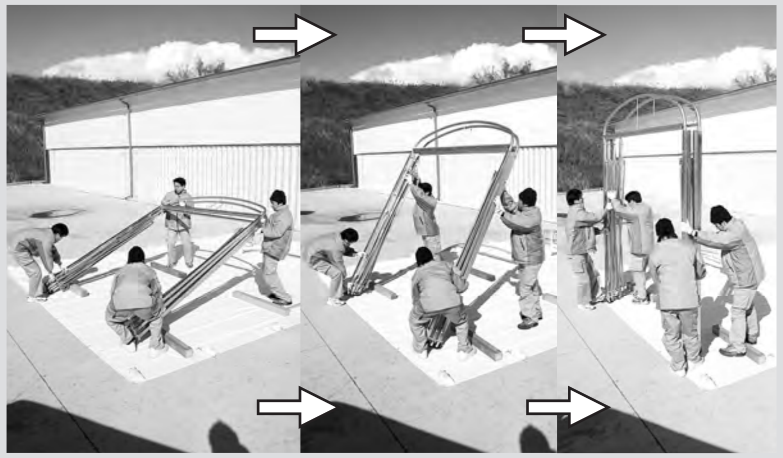


❸ 柱フレームに付属している下記写真箇所のキャスターのストッパーがかかっている事を確認した上で、2人が柱フレーム下部を抑えながら、もう2人が柱フレーム上部をもってフレームを立ち上げます。



⚠ 注 意

フレーム立ち上げ時は必ず大人4人以上で慎重に行って下さい。また、上記写真箇所のストッパーは必ず「ON」にして下さい。「ON」にしていないと、フレームが倒壊する恐れがあります。

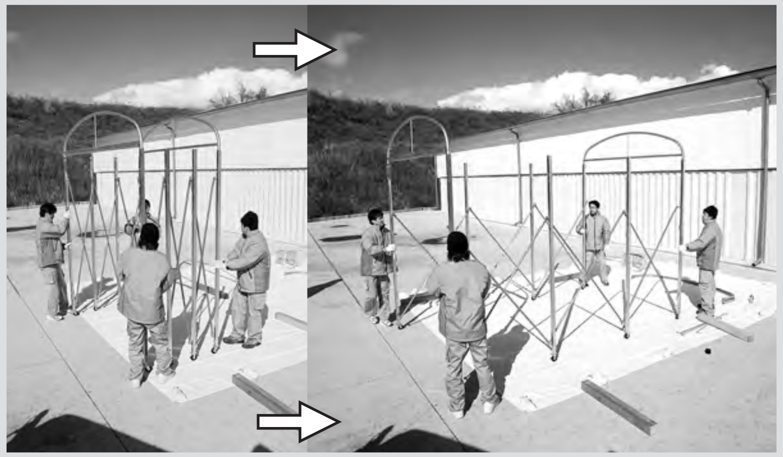


❹ フレームを起こし終えたら、先に固定したストッパー(4ヶ所)を一度「OFF」にし、フレームを伸ばします。伸ばし終えたら、全ての柱フレームのストッパーをかけて、フレームが動かないように固定します。

全てのストッパーを「ON」にします。

⚠ 注 意

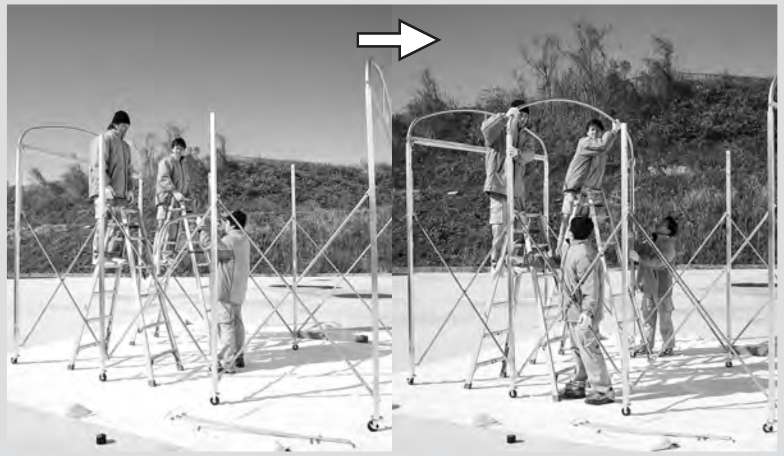
フレームを伸ばす時は必ず大人4人以上で慎重に行って下さい。また、伸ばし終えた後はストッパーを必ず「ON」にして下さい。「ON」にしていないと、フレームが倒壊する恐れがあります。また、クロスバーで指を詰めないよう注意して下さい。



❺ 残りの天井フレームを取り付けます。取り付け後は全ての柱フレームが垂直に立つように調整しながら柱フレームの上下のボルトをしっかりと増し締めし、蝶ボルトを締め込みます。

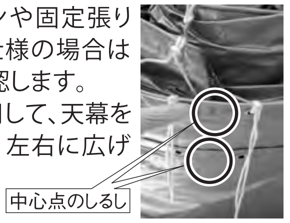
⚠ 注 意

天井フレームを取り付ける時は、脚立等を用意し、左右の柱フレームに同時に取り付けて下さい。また、天井フレームを落とさないように慎重に行って下さい。製品の重みにより、人が傷害を負ったり、物を破損させる恐れがあります。



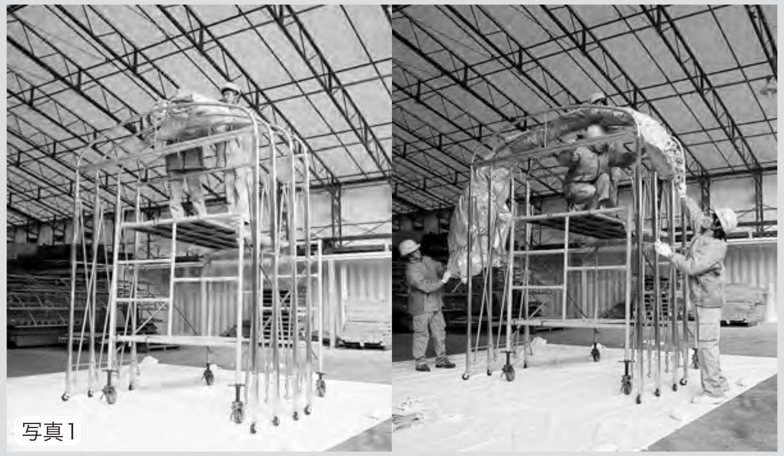
❻ フレームを少し縮めて、「フレーム伸縮防止バー」を取り付けます。左右の上下で計4本取り付けます。フレーム伸縮防止バーはクロスバーの裏側を通すように差し込みます。

❼ 天幕の梱包を解き、天幕の中心点を確認します。
(写真1) シートカーテンや固定張りテント等オプション仕様の場合は前後表示も同時に確認します。
確認後、脚立等を使用して、天幕をフレームの上に置き、左右に広げていきます。



⚠ 注 意

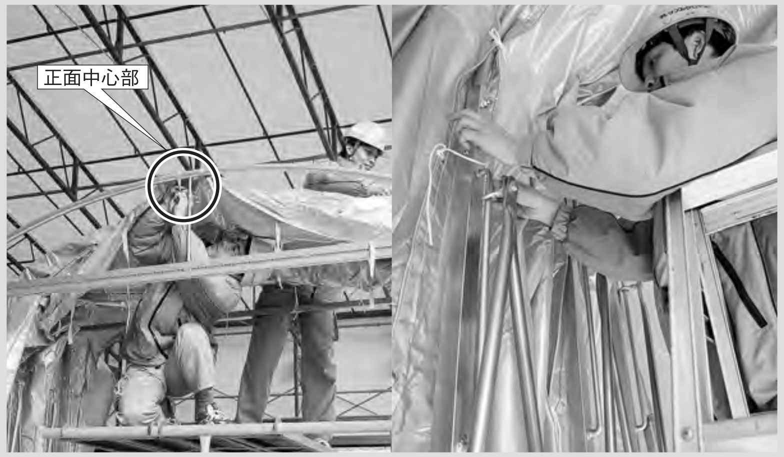
高所で作業する時は、ヘルメット等を着用し安全に十分気をつけて下さい。天幕を張る際は柱フレームのストッパーを「ON」にして下さい。「ON」にしていないと、フレームが倒壊し、人が傷害を負ったり、物を破損させる恐れがあります。



❽ 天幕とフレームをヒモで結んでいきます。まず正面の天井フレームの中心部と天幕の正面中心部とを結び、残りの正面部のヒモを結んでいきます。
次に反対側の背面部のヒモも同じ手順で結んでいきます。その後、順次スパンごとにヒモを結んでいきます。

⚠ 注 意

強風時は天幕が風にあおられて大変危険ですので、設営を行わないで下さい。また天幕だけでなく、フレームが倒れたり、人が傷害を負ったり、物を破損させる恐れがあります。



9 天幕とフレームを全てヒモで結びつけたら完成です。屋外用（アーチタイプ）でご使用の場合は、張り綱を張ってフレームを固定して下さい。

天幕の外側より、天井フレームについているナット部分にカッターナイフ等で切れ目をいれます。

カットした箇所に張綱用アイボルトを取付けます。

※市販のコーキング等で本体テントのねじ込み箇所の防水を行なうと、より防水効果が高くなります。

**ここまで完成した時点で、次の事項を確認し、異常のある場合はテントのご使用を中止してください。
また対応につきましては、お求めになった販売店へお問い合わせ下さい。**

- ● 天幕が破れている、フレームが曲がっている等の異常のある箇所はないですか？
- ● 天幕は寸法通り張れていますか？
- ● 本体フレームの伸縮はできますか？

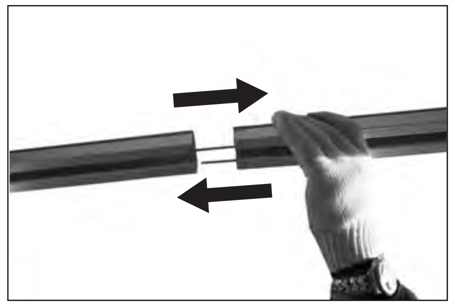
主なオプション仕様

サイズが大きいテントの場合

間口が4,300mm以上の天井フレームは2分割されておりますので、付属のボルト&ナットを使用して組立て前に接続します。

カーテンレールが分割されている場合

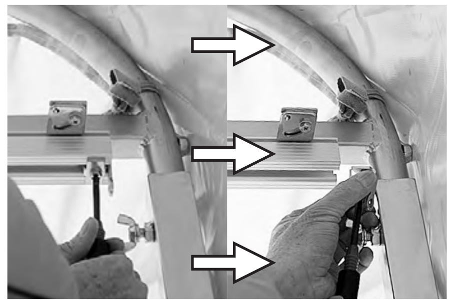
間口が4,300mm以上のフレームにカーテンレールを取付ける場合は、分割されているカーテンレールを接続してから天井フレームに取付けます。



分割されているカーテンレールを接続します。
接続した箇所は天井ブラケットの中心となります。

接続したレールを天井フレームに取付けます。天井フレームに付属の天井ブラケットにレールを通しボルトを締め固定します。

開口箇所にカーテンを取り付ける場合



レール端についているストッパーをドライバーで一旦、外します。
※ストッパーは両端についていますが、どちらか一方を選んで取り外して下さい。

カーテンに付属しているレールコマをレールに通していきます。

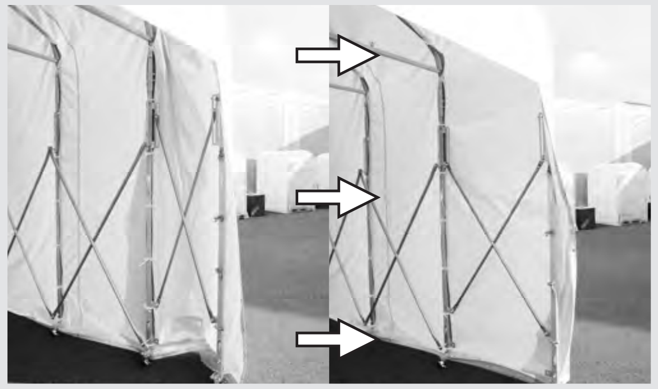
全てのレールコマを入れ終えたら、最初に外したストッパーを再度取付けます。

固定スパンの組立て方法

通常の組立てが終了した後、固定スパンの付く場合は下記の要領で組み立ててください。

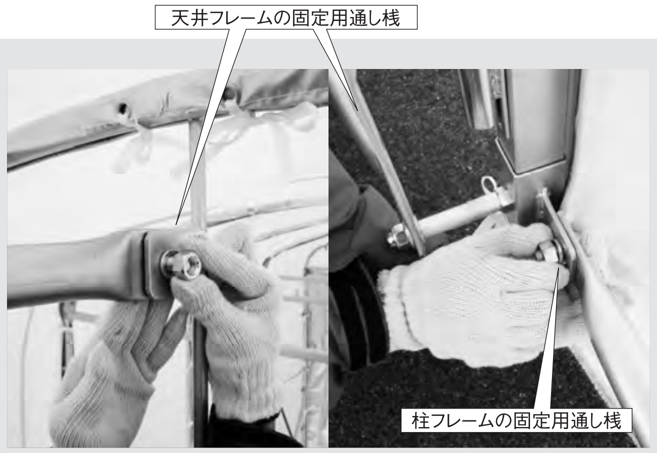
1

固定スパン部のフレームを伸ばします。



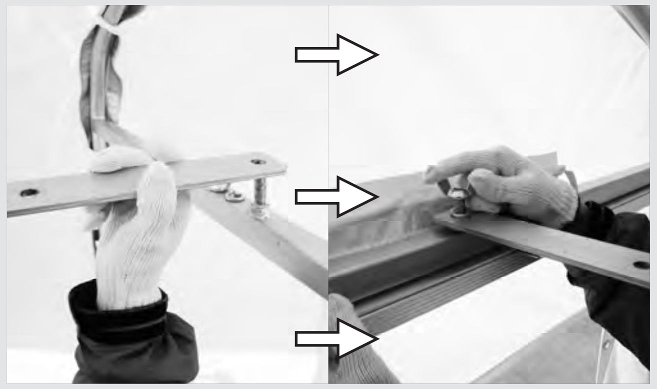
2

柱フレームと天井フレームの固定用通し栈をボルトで固定します。



3

天井フレームにフラットバーを蝶ネジを使用し取り付けます。



4

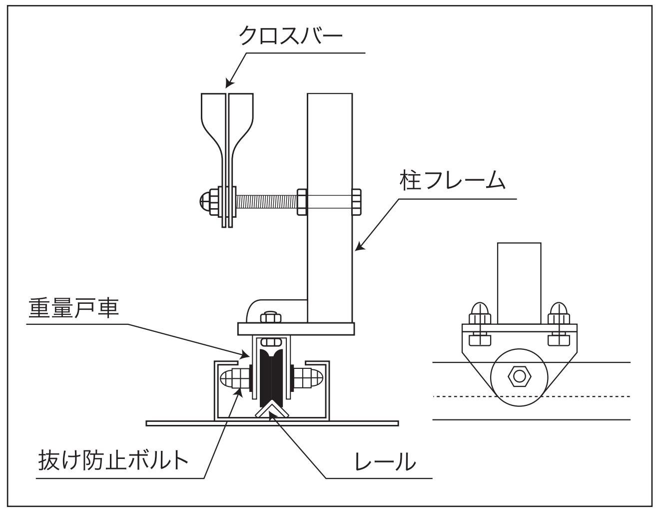
最後にクロスバーのボルトをしっかりと増し締めして完成です。

⚠ 注 意

天井部の栈等を取り付ける際は、脚立等をを用いて、安全に気をつけて行ってください。

レール仕様の場合

レールの取付けに関しましては、販売店にご相談下さい。

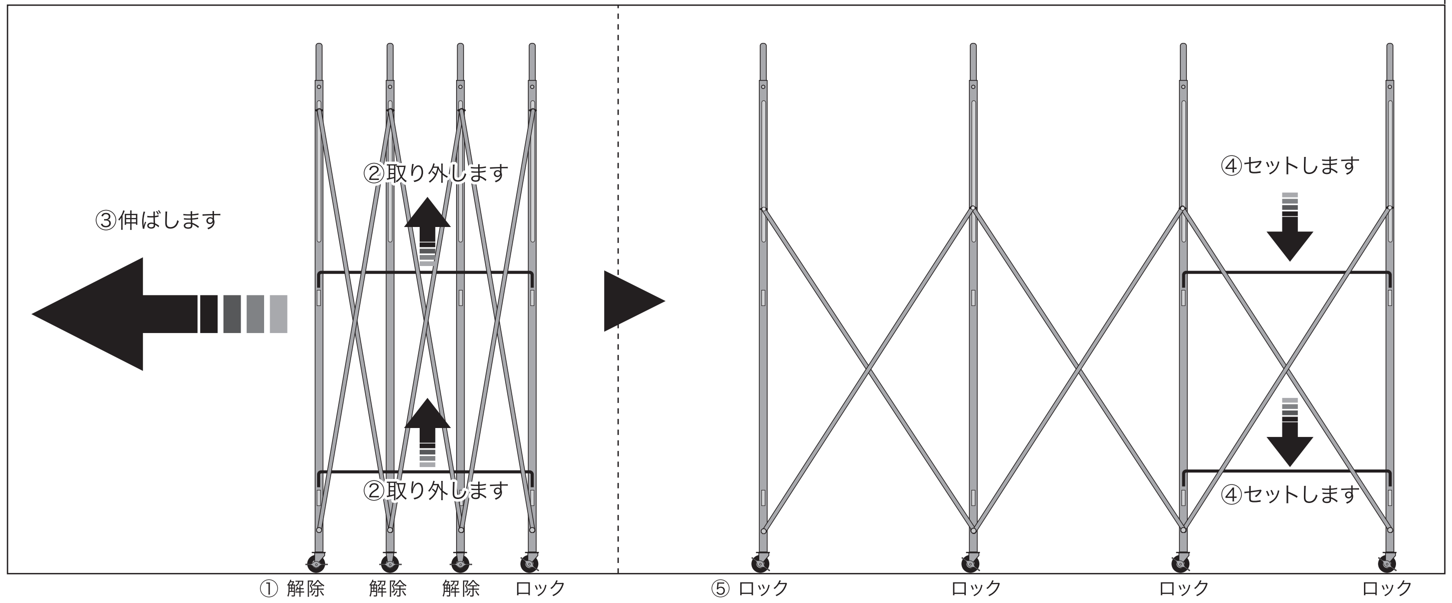


ご使用になる前に…

伸縮作業は安全の為、必ず大人4人以上で行って下さい。
伸縮作業時にはジャバラ部分に手や指をはさむ恐れがありますので、作業時は軍手等を着用し、怪我や事故の無いよう十分に注意しながら作業して下さい。

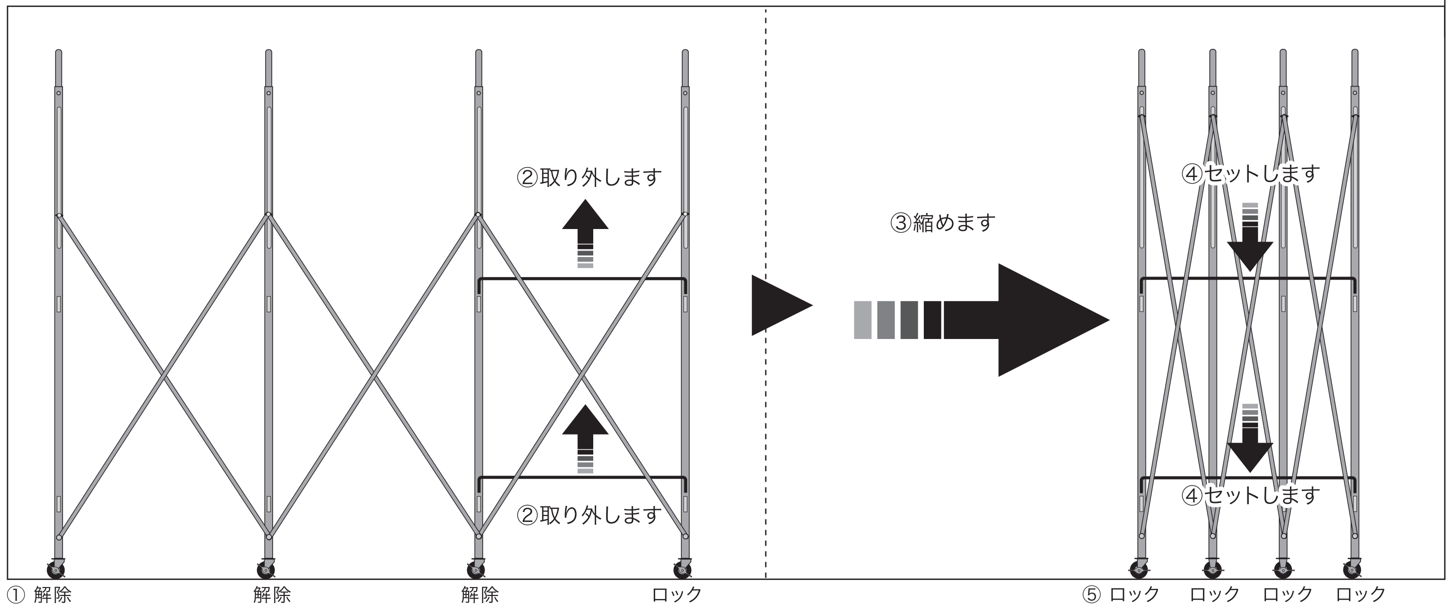
伸ばすときは

① 伸縮の基点となるキャスターのストッパーをロックし、他のキャスターはストッパーを解除します。
② 伸縮防止バーを取り外します。
③ 伸縮させたい側の柱フレームを持ち、テントをゆっくりと伸ばします。
※この際、テント生地をキャスターで踏まないように注意して下さい。
④ 伸縮防止バーをセットします。
⑤ テントの張り具合を確認し、全てのキャスターのストッパーをロックします。

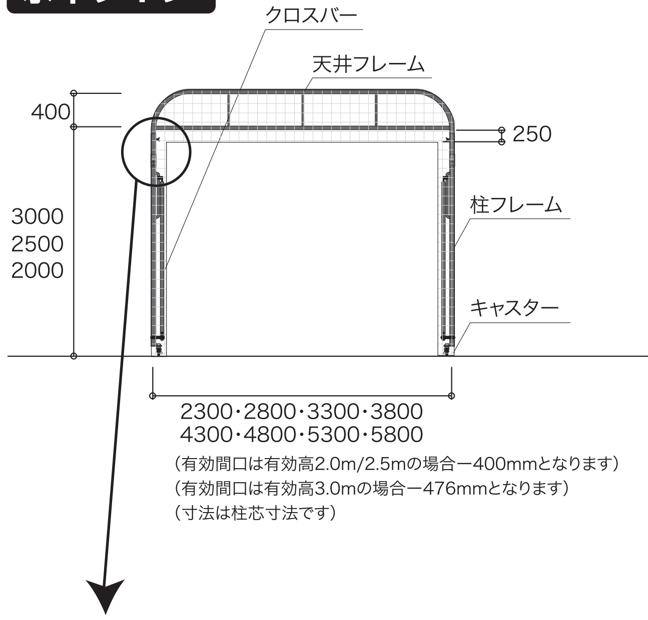


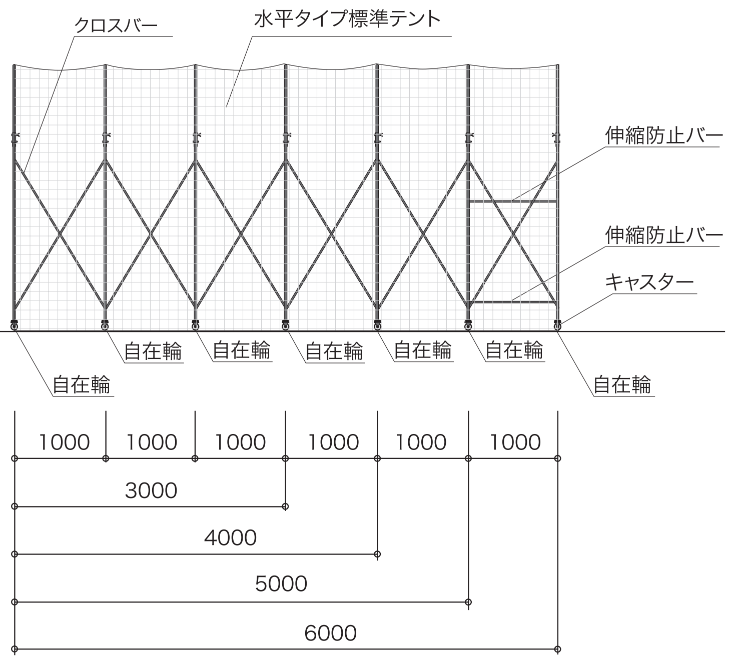
たたむときは

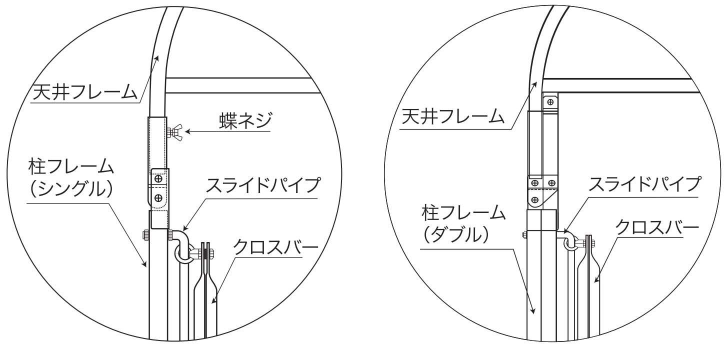
① 伸縮の基点となるキャスターのストッパーをロックし、他のキャスターはストッパーを解除します。
② 伸縮防止バーを取り外します。
③ 伸縮させたい側の柱フレームを持ち、テントをゆっくりと縮めます。
※この際、テント生地をキャスターで踏まないように注意して下さい。
※ジャバラ部分にテントの挟み込みが無いように注意して下さい。
※フレームを縮めすぎると転倒の恐れが有ります。作業は十分注意して行って下さい。
④ 伸縮防止バーをセットします。
⑤ 本体に異常が無いかを確認し、全てのキャスターのストッパーをロックします。



水平タイプ

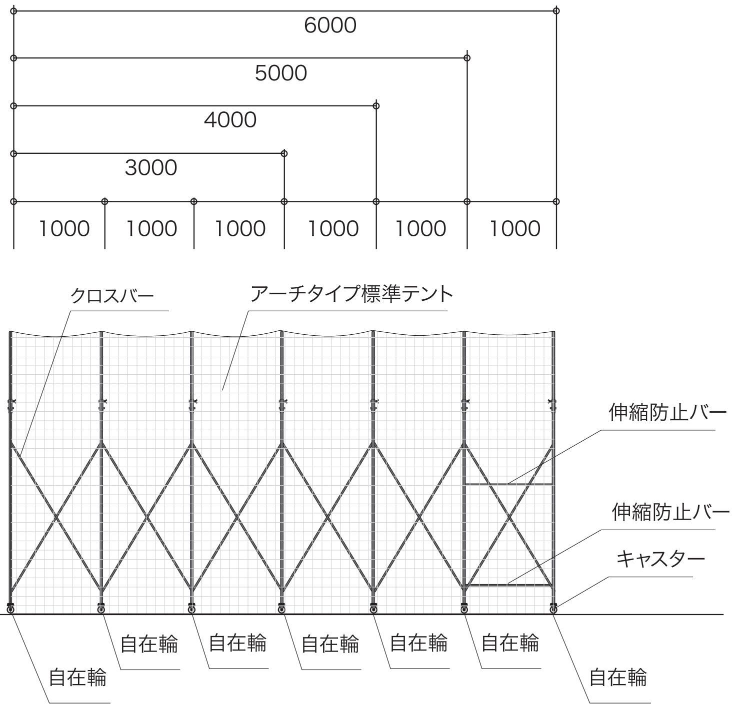
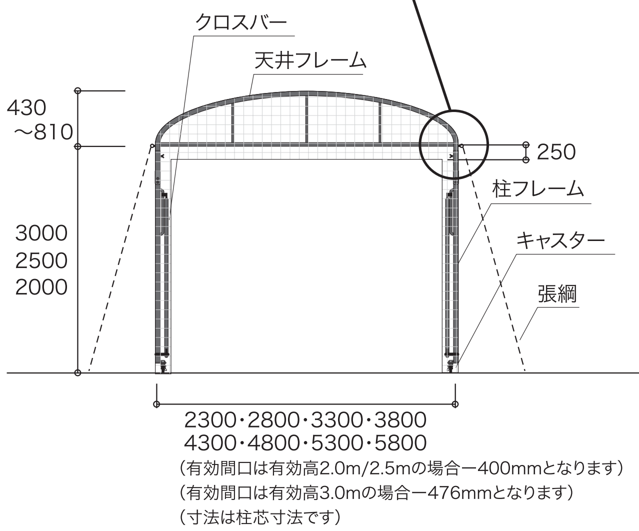






柱シングルフレーム
（有効高 2m/2.5m 用）

柱ダブルフレーム
（有効高 3m 用）



アーチタイプ